
第13期 事業報告書

第13期:2023年5月1日 ~ 2024年4月30日



2024年 6月 25日

特定非営利活動法人Switch

目次

	ページ
1. はじめに	3
2. 2023年度事業報告	4
事業の実施に関する事項（定款記載項目番号に沿って該当事業を記載）	
（1）障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に関する事業	
① 自立訓練（生活訓練） 障害福祉サービス事業所「スイッチ・イシノマキ」	
② 就労移行支援事業 障害福祉サービス事業所「スイッチ・センダイ」	5
③ 就労継続支援事業 就労定着支援事業 就労定着支援スイッチ	6
（2）障害者就労定着支援事業（ジョブコーチ支援、フォローアップ支援）	
ジョブコーチ支援事業	
フォローアップ支援 (OB会)	7
（3）就学・就労支援事業	
・ユースサポートカレッジ石巻 NOTE	8
・令和5年度仙台市若者自立・就労支援業務（ユース PASS0）	9
（5）研究事業（障がい者の理解促進を図る啓発活動、調査研究および政策提言に係る事業）	11
（6）研修事業（マネージメントサポート・講演会・ボランティア養成等）	
（7）インターンシップ事業	12
（12）その他、第3条の目的を達成するために必要な事業	13
・就労や就学に困難を抱える若者を対象とした居場所の設置及び伴走支援の実施事業	
・高校内居場所カフェを起点とした“繋がりに続ける”若者支援事業	14
・カードゲームを活用した子ども・若者のメンタルヘルスリテラシー普及事業	16
・宮城県若者こころの支援モデル事業	18
・令和5年度宮城県オンライン居場所支援モデル事業	20
・東北工業大学 キャリア講座委託	22
・仙台市健康福祉局（仙台市災害こころネットモデル事業） 委託事業	23
3. メディア掲載	24-26

1. はじめに

日本の生産人口は少子高齢化とともに減少を続け、半数以上の企業は「人手不足」が企業活動に影響を与えていると考え、その影響は中小企業や地方企業を中心に広がり、事業の縮小や撤退を余儀なくされる企業も少なくありません。

このような人材不足の状況の中、若者たちの「はたらく」環境は、いかにも売り手市場であるかのように思われます。

しかし、私たちが日々向き合う若者を見ると、そこにはまったく異なる状況があることが見て取れます。

職場内のコミュニケーションに馴染めずに日々苦しむ方。中長期的なキャリアを見通せないでその日その日を生きている方。仕事にやりがいを感じられないまま、もともと持っていた目標を忘れかけている方。

様々な働きづらさを抱えたまま、社会の中で働く若者たちは、回復しつつある地域経済から置き去りにされているようにも見えます。

私たちは設立以来、福祉制度と制度の枠からこぼれ落ちる者たちに対し、本人の強みを最大限に活かし、本人の希望を尊重する、伴走型の支援に取り組んできました。

そこには個々の価値観を尊重することによる、多様な生き方を認めたいという強い思いがありました。

そして、若者が活躍するためには、社会そのものが変化する必要があると考えています。

2023年度、私たちは地域の皆様の支えのもと、さまざまな取り組みを進めてきました。精神、発達障害のある方々のための、福祉サービス事業。制度の枠から外れる若者を支えるユースサポートカレッジ事業。若者の生きづらさに早期に介入するための高校内居場所カフェ事業。さらにインターネット上で孤立する若者に向けたオンライン居場所事業。自宅から出ることが難しい方々に対しての訪問型のサポート事業。世代を問わずにメンタルヘルスを学ぶことが出来るカードゲームの開発など、一見するとバラバラに見えるこれらの取り組みは、実は一貫して現在の地域社会に必要な要素を、追いかけてきた結果だと考えています。

私たちがこのような取り組みを続けていくことが出来たのは、一見無謀とも思える私たちの理念に、共感していただいた方々の存在があったからこそだと考えています。この事業報告書は私たちからのご報告であると同時に、応援してくださる皆様の、お力添えの成果でもあります。

2024年度、私たちはさらに新しい領域への挑戦を目指しています。多くの若者が抱える課題は困難なものも多いですが、それらの課題に私たちは明るく、ともに楽しみながら向き合い、ひとりでも多くの方がWell-beingな生き方を見つけるための、お手伝いをしたいと考えています。

これからも引き続き、若者たちの未来をともに支えていただければと思います。

2024年6月
代表理事 今野 純太郎
代表理事 小野 彩香

2. 2023 年度事業報告（定款記載項目番号に沿って該当事業を記載）

（1）障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に関する事業

① 自立訓練（生活訓練）

「スイッチ・イシノマキ」

◆成果と今後の課題

2023 年度は初回相談数は計 13 名、在籍者数は 9 名であった。2022 年度と比べると、1 か月あたりの通所日数が 30 日程増加しており、実績を大きく伸ばすことができた 1 年であった。日々の通所者が多いことで、事業所・企業見学やパソコンを用いた個別活動や軽作業、創作活動等、個別にあったプログラムを創意工夫した 1 年であった。新規紹介元の特徴として教育機関からの相談が増加しており、年齢層も 10 代が増えてきている。進路決定の段階で障害の整理や、それに伴い障害者雇用や福祉サービスの利用を検討する若年層が増えてきている印象がある。3 月に実施した事業所説明会では高等学校からの反響も高かった。若年層からのニーズが増えてきているため、若年層のニーズに応える取り組みを継続していく。

課題としては、就職者数である。2023 年度は就業者 0 人であった。利用者の状況により様々な帰すうがあるが、来年度は可能な限り就職へとつながるような働きかけに力を入れていく。また、地域柄ではあるが送迎や駐車場がないことも引き続き課題である。

◆実績・活動内容

2023 年 新規相談件数（13 件）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
4	5	2	2	0	0

男女比

男性	女性
4	9

紹介元

行政機関	相談支援機関	医療機関	ハローワーク	パンフレット	石巻 NOTE	教育機関	HP メディア	知人・友人・家族	その他
1	1	3	0	0	3	1	1	3	0

2023 年在籍者数 自立訓練（9 名）

年代・男女別人数

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
1	4	2	2	0	0

男性	女性
3	6

卒業者内訳（退所理由）

就継 B	就継 A	移行支援	就職	体調不良	期間満了	その他
0	0	0	0	1	1	2

※その他の内訳 本人都合による退所 1 名、通所意欲の喪失による退所 1 名

活動内容

コミュニケーション・体調管理・ストレス対処・就職活動等の講座やアートプログラム等の余暇系プログラムを実施。その他、働くイメージづくりのために漁業ボランティアや企業見学、実習等施設外活動も実施している。個別活動としては PC 訓練（タイピングやポスター作成）、障害理解のための学習、創作活動等がある。創作活動では「石巻川開き祭り」の七夕飾りの制作に皆で取り組んだ。



（執筆担当：長岡 千裕・我妻 千絵）

②就労移行支援事業

「スイッチ・センダイ」

◆成果と今後の課題

2023年度は、新規登録が32名、就職者が18名であった。

2023年度はインテーク数が昨年より10件程少ないが、新規登録者は昨年よりも多く、初回相談から利用開始への移行率が上がる結果となった。複数いる初回相談担当者の面談スキル向上に力をいれた結果、より安心して選択できる結果となったと考える。昨年よりも40代、50代の利用者が増え、全体的に登録者の内訳のバランスが取れているように感じる。

卒業生からのアンケート（2023年度）によると、卒業までの期間は1ヶ月～3ヶ月：21% 4ヶ月～6ヶ月：32% 7ヶ月～9ヶ月：21% 10ヶ月～12ヶ月：16% 13ヶ月以上：10%となっており、90%の方が1年以内、50%の方が半年以内に就職することが出来ている。また、就職者の勤務時間は30時間以上のフルタイムが半数となっており、25%程度の方は20時間未満のカスタム就職にて希望達成することが出来た。活動内容は全体的に講座等の満足度は高い。また、担当による個別伴走の中での面談や、見学、実習の効果を強く感じて卒業していく方が多いため、今後も個別支援を大切にしていく必要がある。同時に、職員の力量が問われる部分でもあり、職員の異動や、経験の差によって満足度が影響されやすい為、職員の個別伴走スキル（IPS：Individual Placement and Supportを参考にしたスキル）の担保と、スタッフ間での共有が重要になってくる。

事業所接続のルートは、開設当初より変わらず病院からの紹介が多いのが特徴的ではあるが、今年度は再利用の利用者も増えている。以前利用していた方が再び挑戦を検討した際に当事業所を選んでくれることは、とても嬉しいことであると感じる。併せて、復職希望の接続も少しずつ増加してきており、産業医や主治医等医療機関からの紹介が多く、徐々に認知されてきていることが伺える。

地域の事業所数が増えている事も影響しているのか新規相談数が減少しており、病院からの紹介を維持しつつ、他機関からの紹介を増やしていく事が目下の課題であると感じる。

◆実績

新規相談受理数	新規登録者数	年間在籍者実数	就職者数	6ヶ月定着率
71	32	60	18	72.5%
就職者詳細	□ 障害開示：12 障害非開示：5 A型：1 □ 就職：15 復職：3 □ 正規雇用：3 非正規雇用：15			

在籍者年齢層

10代	20代	30代	40代	50代	60代
1	22	14	15	5	3

紹介元内訳

病院	役所	相談支援事業所	ハローワーク	職業センター	就労支援事業所等	職場・学校	家族
22	5	1	4	0	0	3	1
友人・知人	Web	パンフレット	アーチル	再利用	仙台NOTE	その他	
2	3	6	0	8	3	8	

*その他 内訳に含まれない相談支援機関等

◆活動内容

個別担当制の伴走型就労支援（IPS）を実践している。（2023年度フィデリティ得点GOI 8/10点、JISEF 108/125 8原則に対する卒業生の満足度Ave. 3.6※各項目4点満点）

個別担当制の中、認知行動療法、コミュニケーション、セルフケア、就活講座、PC講座、の5つをプログラムの柱としながら、見学や実習体験、他機関との連携等利用者一人ひとりに合わせた個別的就労支援を実施。



(執筆担当 田口雄太・坂下直也)

③就労継続支援事業

就労定着支援スイッチ

◆成果と今後の課題

2023年度は4名が新規利用開始となった。定着支援事業開始から3年以上が経過し、徐々に期間満了での修了者が増えてきている。

国の目標として就労移行支援から就労定着支援への移行率7割を掲げているが、当事業所の移行率は4割強と国目標を下回る水準にある。定着支援を利用しない理由としては、月に1度必ず相談の必要があることに対するの負担に感じるとの声が多く聞かれている。また、一部ではあるが外部の事業者と契約をして定着支援担当を配置している企業も見られており、これらが就労定着支援事業への移行率低下につながっていることが考えられる。

昨年度同様相談内容は職場に係る相談が4割、体調や生活にかかわる相談が6割となっており、安心して業務に当たっていく為にも体調や生活に係る相談の重要性がわかる。

2024年度から就労定着支援の質をより高める目的で、定着支援利用者が終了時に就業・生活支援センターへ引継ぎを行った場合、定着支援サービスの評価が下がる減算取り扱いが始まった。弊法人の利用者の中には、定期的な個別相談等を活用しながら働きたいと希望する方や、仕事自体がリハビリテーションであり長期定着を目的としていないという考えの方もいるのが実際であり、今後も全ての利用者のチャレンジを応援し続けていけるよう、様々な関わりを模索していきたい。

◆実績 2023年度 就労定着支援事業 利用状況

在籍者数	うち、期間満了修了者	うち、離職者数
19	3	3

(執筆担当 田口雄太・坂下直也)

(2) 障害者就労定着支援事業 (ジョブコーチ支援、フォローアップ支援)

ジョブコーチ支援事業

■訪問型職場適応援助者によるジョブコーチ事業 (以下 JC 事業)

◆成果と今後の課題

JC事業の利用は、昨年度からの継続利用者1名のみの利用となった。一定の需要はあると感じるものの、職員配置の基準等から事業としての継続の難しさがあった。しかし、事業利用に関わらずジョブコーチの支援は効果的であることから、ノウハウの共有を進めながら、多くの職員がジョブコーチ的な視点を持ち、介入度に応じて障害者職業センターのジョブコーチと連携しながらフォローアップしていく必要があると考える。

◆実績・活動内容

高齢・障害・求職者雇用支援機構 訪問型職場適応援助者助成金

2023年度実績

	実対象者数	支援回数	離職者	稼働配置 JC
2023年度	1名	4回	0名	1名

・法人単独支援にて実施。

(執筆担当 田口雄太)

フォローアップ支援事業

■スイッチ・センダイ OB会

◆成果と今後の課題

2022年度から再開したOB会を、今年度も継続した。2023年度は、年4回実施し、フリートークや参加者がスイッチ・センダイ在籍時代に行っていた認知行動療法（CBT）等のプログラムを実施した。また、12月には忘年会として、数年ぶりの飲食を伴う行事も実施できた。

参加者からは、「OB会を楽しみに仕事頑張っています」と言われたり、現スイッチ・センダイ利用者からは早く仕事に就いてOB会に出ることができるよう頑張りたい等、卒業後のサードプレイスとなっていることが伺えた。これらの事から、OB会があることが参加者に留まらない方々へのWell-beingに寄与していると思われる。

また、スイッチ・センダイ職員が、社会で活躍している卒業生方とかかわることが出来る貴重な機会にもなっており、新規職員等が自身の担当する利用者がどのように働いていくかをイメージする一助にもなっている。

◆実績・活動内容

3か月に1度、年4回実施

2023/6/23	2023/9/22	2023/12/27	2024/3/1
10名参加	7名参加	15名参加	7名参加
フリートーク	近況共有等 GW	忘年会	プチ CBT



(執筆担当 田口雄太)

(3) 就学・就労支援事業

■ユースサポートカレッジ 石巻 NOTE

◆成果と今後の課題

今年度も、進路決定支援のための、個別支援、各種講座、職場実習などを通じ、一定数の進路決定者と就職者を出すことが出来た。とくに今年度はここ数年の課題であったスモールステップの場所としての居場所機能について、日本財団の助成事業により、出張居場所や居場所探索・ワークショップ（WS）等の取り組みを実施することができ、石巻市内において若者の居場所を拡大するための取り組みに着手することができている。また高校内居場所カフェ「NOTEcafe」についても従来実施している高校以外からの需要が高く、教育機関に早期介入すること、また協働して支援していくことへの高いニーズを実感しているところである。対象者へ早期介入できる間口が広がっているが、状態像は変わらず幅広い。原因ははっきりしないが就労や就学になかなか至れないケースや、そもそも外出することが困難なケース、障害福祉サービスを利用できる状況になるまでにNOTEを活用するケース、NOTEの活動を通して受診や制度利用を考え始めるケース等、個々の状態に合わせて継続して伴走し多様な「移行」をサポートする役割を求められている。他、メンタル不調などにより外出に困難を抱える対象者もいるため、アウトリーチ支援を活用しながら対象者の状況に応じて柔軟に支援展開していきたい。

課題としては、就職者数が減少していることである。居場所支援から就労への動機付け・就活まで行動を起こすまでは時間がかかることも多いが、創意工夫により就職等進路決定に行きつくための取り組みを引き続き行っていく。また職場実習先の開拓も課題である。居場所の提供と進路決定支援と両輪で取り組めるよう検討していきたい。

◆実績

登録者数	新規相談者数	延べ相談者数
62名	28名	1153件

職場見学・実習参加者	講座参加者	アウトリーチ件数
延べ47名	延べ134名	延べ42件

卒業者数	帰すう（進路決定先）
9名	就労7名、就学・復学2名

地域交流イベント：実施回数	参加者数
計13回：実施場所6か所	計107名

※関連助成事業等：（詳細は後ページにて）

- ・就労や就学に困難を抱える若者を対象とした居場所の設置及び伴走支援の実施事業（日本財団）
- ・高校内居場所カフェを起点とした“繋がりを続ける”若者支援事業（令和5年度宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業）

（執筆担当 長岡 千裕・伊藤 愛羅）

■令和5年度 仙台市若者自立・就労支援業務（コースPASSO）

◆概要

令和5年度6月より、制度のはざまからこぼれ落ちる多様な困難を抱える若者の支援を長年継続してきた実績を活かし、仙台市の委託「仙台市若者自立・就労支援事業」として「コースPASSO」を開設した。仙台市内に在住または通勤・通学しており、中学校卒業以降～39歳までの方で働くこと、学ぶことに不安や困難を抱えている方を対象に、その一歩を応援し一人ひとりに合わせた個別サポートを実施する。発達障がいのある方やこころの不調を抱えている方のご相談も承る。

具体的支援内容は、個別相談（こころの相談やキャリアカウンセリング等）、フリースペースの提供、就労サポート（コミュニケーション講座、就活講座、ビジネスマナー講座、パソコン講座、応募書類作成や面接対策、職場体験実習）、リカバリープログラム（こころの講座、アートプログラム、ウォーキング、ゲーム大会等）、併せてアウトリーチ支援、オンライン居場所「PASSO オンライン」（週1回）、夕方夜間の居場所/相談窓口（週1回・17時～20時）を設置し、より若者にリーチしやすい体制を整えた。

◆成果と実績

6月開所から利用者は増加の一途を辿り、総登録者数は100名超、延べ利用者数は1500名を超え、困難を有する若者が安心して相談したり過ごしたりできる場所の需要の高さを実感している。

利用者層は支援機関、学校、病院からの紹介が多く、教育機関は大学生や既卒3年卒の学生を中心に、10代の高校生世代の進路相談が増えている。すぐに就労を目指したいというよりは、まず生活リズムを安定させたい、休学中・卒業後の日中活動先として利用したいといった希望で利用開始される方が多く、フリースペースの利用の需要も高かった。アウトリーチは支援機関や家族からの問い合わせから始まり、ご本人の課題と家族との関係性、健康面や経済面、学校や仕事等の環境課題の課題が重複している状態が殆どである中、状況の把握、課題の早期発見、関係機関との連携などを行い、若者がひきこもりの状態から一歩社会へ繋がる接点を作った。他機関連携では「仙台市子ども・若者地域協議会」のネットワークにより、子ども若者総合相談センターを始めとした若者支援に携わる関係機関、支援団体との繋がりを深めることができた。

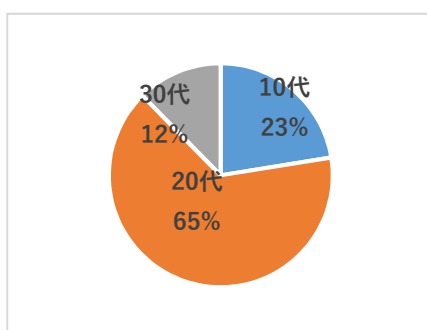
◆実績データ

年間登録者数	継続登録者数（R6.3月時）	利用者数	新規相談受付数
108名（男性56・女性52）	89名	延べ1,538名	128名

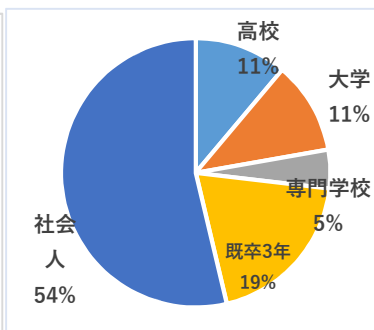
個別相談件数	講座参加者数	職場見学/体験件数	アウトリーチ支援件数
750件	延べ188名	延べ52件	11件（延べ272件）

夕方夜間居場所利用者数	オンライン居場所利用者数	進路決定者数
延べ91名	延べ30名	29名（就労20・進学4・復学1・福祉サービス移行4）

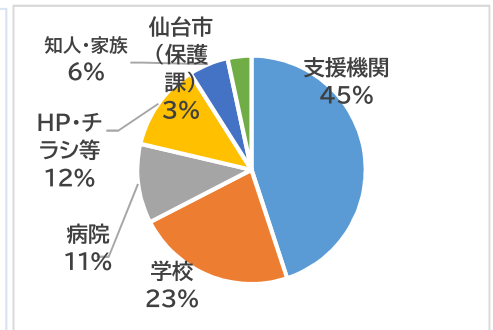
【登録時年齢】



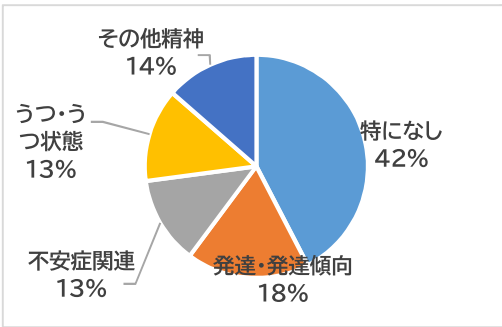
【登録時属性】



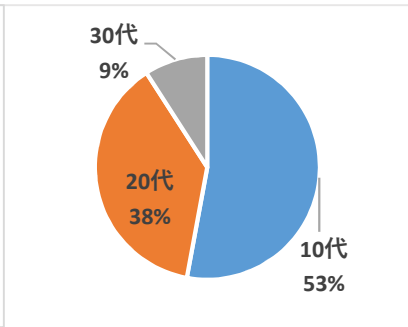
【紹介元】



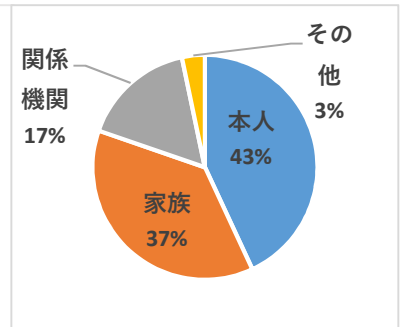
【特性など】



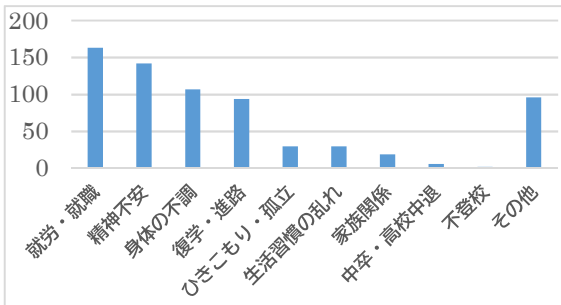
【アウトリーチ年齢】



【アウトリーチ対象】

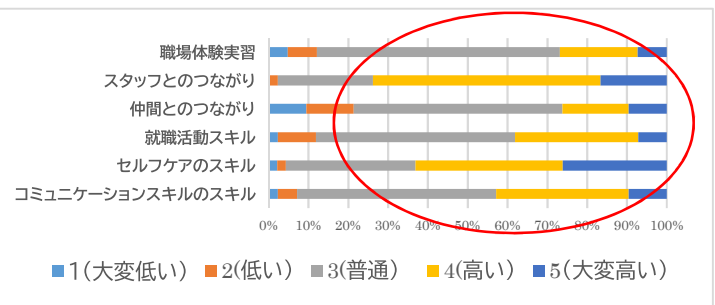


◆個別相談(面談)の傾向

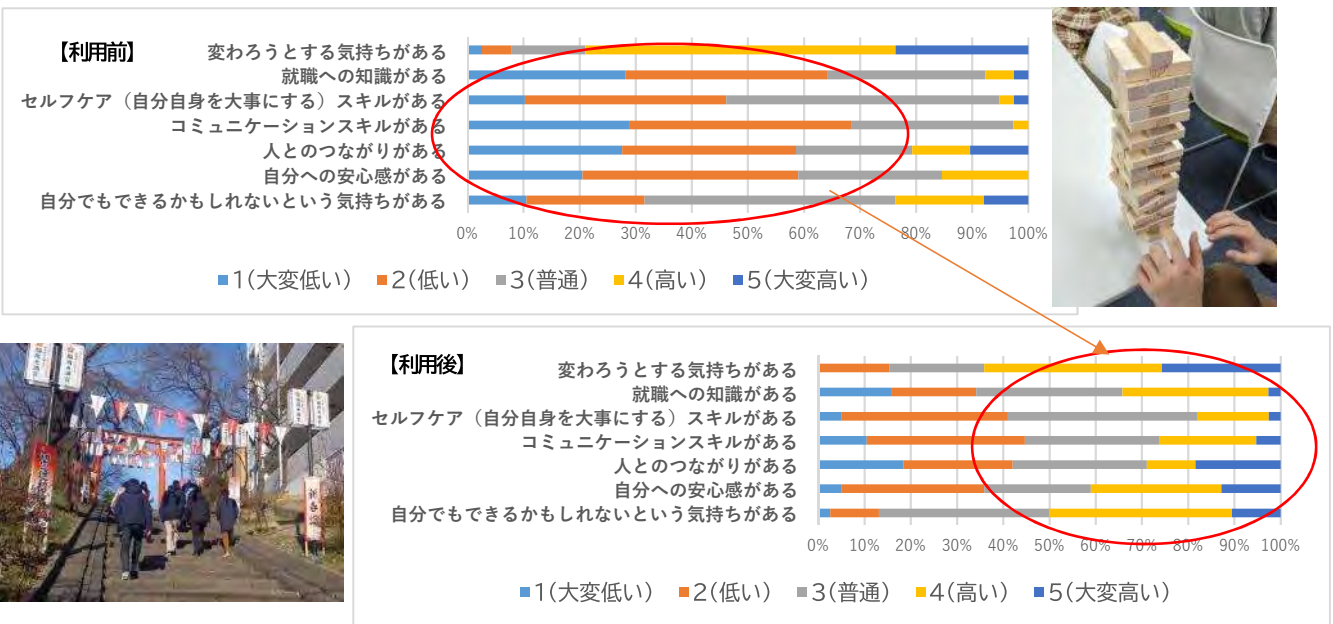


※その他：ふりかえり・定着面談等

◆自分にとって役立つこと (修了アンケートより)



◆利用者の変化について (n=42 利用前・利用後アンケート回答済の対象者)



◆課題と考察

実績やアンケートからも、若者が社会と繋がる接点を作り、社会へ向けた一歩を踏み出すために必要なサポートを提供する場として、1年目として一定の成果を上げることができたのではないかと考えている。課題として、困難化・複雑化した相談内容への対応についての細やかな伴走支援と関係機関との連携強化、対象となる方への障害福祉サービスへの移行サポート、職場見学・体験先の更なる開拓が挙げられる。今後より強化し、若者の多様な課題に対応する体制を作り若者が安心して自立・就労を目指せる場所を作っていきたい。

(執筆担当：小関美江)

研究事業（障がい者の理解促進を図る啓発活動、調査研究および政策提言に係る事業）

【委員委嘱等】

- ・ 仙台市障害者施策推進協議会委員 委嘱（小野）
- ・ 仙台市自殺対策連絡協議会委員 委嘱（小野・小関）
- ・ 宮城県いじめ防止対策調査委員会委員 委嘱（小野）
- ・ 日本精神保健・予防学会 評議員（高橋由佳）
- ・ 日本精神障害者リハビリテーション学会 研修委員（小野）
- ・ 石巻市子どもセンター運営会議委員（今野）
- ・ 社会福祉法人涌谷町社会福祉協議会 重層的支援体制整備事業 参加支援事業検討会 委員（伊藤）
- ・ 仙台市男女共同参画審議会 委員 委嘱（今野）

【加盟団体】

会員団体一覧

新公益連盟、日本精神障害者リハビリテーション学会、日本NPO学会、日本精神保健・予防学会、NPO法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会、宮城県中小企業家同友会、公益社団法人仙台中法人会、せんだい・みやぎNPOセンター、仙台市社会福祉協議会、日本IPSアソシエーション、宮城就業支援ネットワーク

【論文・発表 等】

- ・ 日本ヒューマン・ケア心理学会 論文「オンライン形式によるゲートキーパー養成講座の効果検証:大学1年生を対象に」（加藤大延・小関美江・高橋由佳・遠藤紀寿・内田知宏）

(5) 研修事業（マネージメントサポート・講演会・ボランティア養成）

- 6月 宮城県石巻好文館高校 SDGs探求活動 講義（伊藤）
- 6月 認定特定非営利活動法人ローゼンバール 第29回関係機関団体連絡協議会 「認定NPO法人Switchの活動におけるケア・課題・対策」講話（今野）
- 6月 社会福祉法人 石巻祥心会 石巻地域就業・生活支援センター 在職者交流会余暇活動 出張ダンスレッスン 講師（高橋）
- 6月 仙台市精神保健福祉総合センター 令和5年度ひきこもり講演会「ひきこもり・不登校の若者への理解と対応～ひきこもる若者にどう寄り添うか～」講師（小関）
- 7月 宮城大学 看護学群 ライフステージ看護学概論Ⅱ 「若者の自死予防について」講義（加藤）
- 7月 アミークス株式会社 アミークス研修会（社員研修）講師（田口）
- 7月 仙台市 ひきこもり支援に関するシンポジウム 支援関連事業紹介ブース設置協力（山田・小野）
- 8月 古川学園中学校・高等学校 校内研修会「高校連携とウェルビーイング」講師（小野・小関）
- 8月 仙台市こども若者相談支援センター 令和5年度ふれあい広場「キャリアアップゼミ」講師（8, 9, 11月）
第1回:「はたらく」について考えよう! 第2回:強みを見つけよう!リフレーミングワーク
第3回:ストレス対処法について考えよう!「カードゲーム ココロリーツナガール」(小関)
- 8月 仙台市こども若者相談支援センター 令和5年度第4回電話相談員研修会「行政とNPOの連携そして若者支援の在り方を考える」講師（小関・今野）
- 9月 特定非営利活動法人栗原市障害者就労支援センター「ココロリーツナガール」講師（山田）
- 9月 こども家庭庁支援局虐待防止対策課 アウトリーチ（訪問支援）研修 講師（長岡）

- 10月 公益財団法人 日本非営利組織評価センター「NPO 事業承継サミット 2023」セミナー登壇（動画）（今野・小野）
- 10月 仙台市市民局 仙台市・（公財）せんだい男女共同参画財団 困難を抱える若者女性支援推進イベント 支援団体活動紹介ブース設置協力（今野・小関）
- 10月 東北工業大学 経営コミュニケーション学科経営コミュニケーション特論「NPO 経営論」ゲスト講師（今野）
- 10月 エイブル・アート・ジャパン スウプノアカデミア「アサーション講座」講師（加藤）
- 11月 特定非営利活動法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会 令和5年度仙台市ピア相談員「ピアサポーター」雇用促進事業 ピアサポーター研修会「セルフケア」講師（小野）
- 11月 青葉区民まつり TSUNAGI TABLE 「ココロンリーツナガール」ゲーム体験ブース参加（今野・小関・加藤・山田）
- 11月 NPO 法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク スイッチ・センダイ施設見学（田口）
- 11月 仙台市自閉症児者相談センター 発達障害者家族教室における講話「就労支援について」講師（山田）
- 1月 大郷町 令和5年度こども・若者自殺対策セミナー「こどものSOSにどう向き合うか～SOSを出してもらえ
る大人になるために～」講師（小野）
- 11月 特定非営利活動法人ブルースター 社員見学研修受入
- 11月 社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会 令和5年度虐待防止委員会 全体研修会「福祉現場におけるアサーティブコミュニケーション」講師（小野）
- 11月 仙台市市民活動サポートセンター「ちょっと。ボランティア」ボランティア受入（小野）
- 11月 株式会社オンワード・マエノ ビジネスマナー職員研修 講師（小関）
- 12月 特定非営利活動法人アスイク 本部スタッフ向け講義 スーパービジョン（小野）
- 12月 宮城県中小企業家同友会 共生福祉部会 12月部会セミナー 報告（今野・小野）
- 1月 亘理町役場 ゲートキーパー養成講座 講師（加藤・小関）
- 1月 株式会社オンワード・マエノ リスクマネジメント研修 講師（小野）
- 2月 仙台白百合女子大学 就活スタートアップセミナー「就活×セルフケア講座」講師（小関）
- 2月 栗原市地域自立支援協議会精神部会 研修会 講師（長岡）
- 2月 宮城県涌谷高等学校 進路セミナー「働く人にきいてみた！」講師（小関）
- 2月 KBS 京都「笑福亭晃瓶のほっかほっかラジオ」出演「カードゲーム ココロンリーツナガール」（小関）

（7） インターンシップ事業

- ・仙台市自分作り教育 職場体験活動 受入 仙台市立上杉山中学校（小野）
- ・尚絅学院大学大学院総合人間科学研究科心理学専攻 臨床心理学コース公認心理師心理実践実習（加藤）
- ・東北文化学園大学 医療福祉学部保健福祉学科 精神保健福祉援助実習（坂下）
- ・東北福祉大学 精神保健福祉実習Ⅰ（坂下）

(12) その他、第3条の目的を達成するために必要な事業

■ 就労や就学に困難を抱える若者を対象とした居場所の設置及び伴走支援の実施事業

事業名	就労や就学に困難を抱える若者を対象とした居場所の設置及び伴走支援の実施事業
助成委託団体・助成金名	日本財団
助成・委託期間	2023年4月～2024年3月
【事業概要】若年無業者が自分の将来と向き合い、就労・就学等主体的に自分の力で将来に向けて動き出せるようになることを目的として出張居場所の開催、就労・就学に向けた伴走支援の実施、居場所探索のワークショップを行った。また、対象の若者の自己肯定感の向上、多様な経験を積む中で社会や他者とのつながりを増やすことを目標に活動に取り組んだ。	

【事業内容】常設居場所を通じた就労・就学支援、

【事業の成果】

■居場所開所日数 241日（月曜日～金曜日）、登録利用者数 62名、来所者数延べ 638名、相談件数 1153件
就職決定者数 7名、就学・復学者数 2名、新規相談件数 28件、電話対応件数 309件、メール対応件数 201件
Zoom 対応件数 11件

■講座実施回数 222回（IT系、セルフケア系、就活系、余暇系）、参加者数 134名

■職場実習回数 15回、職場実習参加者数 47名、実習先 6か所

（遠藤農園、狐崎浜、イシノマキファーム、パーラー山と田んぼ、フードバンク石巻、はまなすの里）

■出張居場所開催回数 13回、参加者数延べ 103名＋他機関見学者 4名

実地場所 6か所（シアターキネマティカ、北上川運河交流館、生協アイトピアホール、かわまち交流センター、石巻自由福音協会、ささえあいセンター）、利用者アンケート取得数 102件、出張居場所チラシ 10回

■若者居心地いいマップ

マップ製作のための探索ワークショップ 8回実施、聞き取りワークショップ 8回実施（内 1回サポステと連携）

探索参加者延べ 51名、聞き取り参加者延べ 53名、計 104名

マップ発行部数 2000部、マップ配布・設置先 93カ所（圏域教育機関 11カ所、圏域行政機関 30カ所、NPO等圏域関係機関 35カ所、掲載協力機関 17カ所）

当法人ホームページ内にてウェブサイトを構築し公開



【課題と考察】

出張居場所の開催では、これまでNOTEには繋がりがなかった目的が曖昧な対象者も拾うことが出来、ワークショップを行う中で参加者同士の距離も縮まり、これまでなかった若者達の交流が多く見られた。

また自分の居場所を改めて考え直すことで、地域に眠る自分の居心地の良い場所を参加者それぞれが再認識することが出来た結果、当事者目線に特化したマップを完成させることが出来た。

配布した行政機関や教育機関からは「具体的で素晴らしい、こんな場所があるのは知らなかった、地元の若者はもちろん観光客にも読んでもらいます、とても良いマップなので全校生徒に配布します」と多くの反響が得られるなど事業の効果を感じる一方で、課題となったのは居場所を利用した若者の進路決定率の低さであった。

安心の居場所を求めている若者は、社会経験や学生時代に築くはずの体験が少なく、そもそも就労・就学を目標とすることがハードルとなっていると推察する。新年度は機会格差の解消を中心とした事業の展開を行っていく予定である。



(執筆担当：伊藤愛羅、長岡千裕)

■ 高校内居場所カフェを起点とした“繋がり続ける”若者支援事業

事業名	高校内居場所カフェを起点とした“繋がり続ける”若者支援事業
助成委託団体・助成金名	宮城県・令和5年度復興・被災者支援を行うNPO等の絆力強化事業
助成・委託期間	2023年7月1日～2024年3月31日まで
<p>【事業概要】高校内居場所カフェ「NOTE Cafe 事業」の実施 Cafe未導入高校が居場所カフェを導入しやすくなるためのしかけづくり 躓きを抱える若者の進路決定サポートの3つ</p>	

【事業内容】継続したNOTE Cafe事業、未導入高校へのアプローチ、長期休みの高校生サポート、中退や進路未決定で卒業した所属のない若者へのアウトリーチ。

【事業の成果】

■NOTE Cafe 定期訪問

宮城県立石巻北高等学校飯野川校：10回 延べ62名参加

宮城県立東松島高等学校：11回 延べ17名参加

石巻市立桜坂高等学校：11回 延べ29名参加

宮城県立石巻西高等学校：7回 延べ46名参加

宮城県貞山高等学校：2回 延べ19名参加

合計37回実施（達成率92.5%）参加人数173名（達成率115.3%）

問い合わせ・相談件数 181件（カフェ内での面談、その他電話・メール相談）

進路決定件数 7件（就職4件、進学3件）連携校数 13校

石巻圏域高校訪問 10校×2回（夏・冬休み前）

■お試しNOTE Cafeの提案・実施

宮城県立涌谷高校、宮城県立田尻さくら高校、宮城県立石巻工業高等学校にて提案7回・実施1回

■躓きを抱える若者の進路決定サポート

アウトリーチ合計42回（達成率155.5%）5名を対象自宅訪問、同行支援

長期休み等での応援窓口高校生利用 相談件数39件

【課題と考察】

今年度のNOTE Cafe 事業では飲食物の提供やBGMの導入、ボードゲーム等複数人で遊べる物を設置するなど、新たな取り組みを行った結果、カフェの整備が進み障害の有無に関わらず誰でも利用できる場として認知が生徒に広がった。また、利用方法やカフェで出来ることを明確化し、黒板・チラシ等で周知したことで利用の敷居が下がり利用者数の目標値を上回ることが出来た。

これまでは進路室の一角を使用し個別に特化したNOTE Caféが多かったが、生徒がだれでも通るオープンな場でも開催した結果、教員や生徒のカフェに対する理解が促されボランティアスタッフの導入や応援窓口との接続がより円滑になった。

一方で今後の課題としては、利用生徒数が増加したことによるスタッフの人手不足がある。利用する生徒に対し、対応スタッフが少ないことで個別の相談が受けられない、場を管理する者が足りないことは改善する必要があると感じる。次年度はボランティアスタッフの確保やその他の人材確保の手段を検討していきたい。



(執筆担当：伊藤愛羅、長岡千裕)

■ カードゲームを活用した子ども・若者のメンタルヘルスリテラシー普及事業

事業名	カードゲームを活用した子ども・若者のメンタルヘルスリテラシー普及事業
助成委託団体・助成金名	日本財団助成事業
助成・委託期間	2023年4月～2024年3月
事業概要	<p>子ども・若者のメンタルヘルスリテラシー寄与のため、①「ココロリーツナガール」*1 を活用したイベント・出張講座の開催、②「ココロリーツナガール」ファシリテーター養成講座の開発・検証、③夕方・夜間相談窓口の設置 の3つの取り組みを実施。子ども・若者がカードゲームで遊びながら、気軽にメンタルヘルスリテラシーを学べる仕組みを広く発信・普及していくとともに、併せて若者の自殺が多い時間帯に夕方・夜間相談の窓口を設置し、若者の孤立を防止する。</p> <p>*1 「ココロリーツナガール」とは Switchが2022年度日本財団助成事業において開発したカードゲーム。ストレス対処やセルフケアについて、カードバトルを通して遊びながら考えることができる。</p>

【事業内容】

① 「ココロリーツナガール」を活用したイベント・出張講座の開催

カードゲーム「ココロリーツナガール」を活用し、ゲームイベントを3回、出張講座を2回開催。

実施日・開催場所	内容
2023年9月2日(土) ワカモノセルフケアワークショップ ／ 仙台市市民活動サポートセンター	12名参加。ストレス対処やセルフケアに関するミニ講座、カードゲーム体験の時間をそれぞれ設け、日頃のメンタルヘルスを振り返り、考えてもらう機会とした。
2023年11月18日(土) ワカモノセルフケアワークショップ ／ 青葉の風テラス イベントスペース	13名参加。セルフケアを考えるブース、カードゲーム体験ブースを設け、実際にカードゲームをプレイしながらストレス対処について対話を楽しんでもらう機会とした。
2023年12月9日(土) 東京ゲームマーケット2023秋 ／ 東京ビッグサイト(ブース出展)	東京で年2回開催される大規模イベントにて、試遊・販売ブース設置。ゲームに関心の高い47名超のブース来場があり、メンタルヘルスへの興味関心を高めるきっかけづくりができた。
2023年7月14日(金) 出張講座 / 尚絅学院大学	学生11名が参加。カードゲーム体験を通じて、様々なストレス対処法やセルフケアがあることを学んでもらう機会とした。
2024年2月19日(月) 出張講座 / 宮城県貞山高等学校	生徒5名、教員3名が参加。カードゲーム体験を通じて、遊びながらストレス対処やセルフケアを考えてもらう機会とした。

参加者アンケート結果 (各イベント・出張講座で実施、回答総数80件)

- ・ 満足度 87.5%
- ・ 「ストレス対処やセルフケア、アサーションについて、新たな気づきや発見があった」 81.3%

② 「ココロリーツナガール」ファシリテーター養成講座の開発・検証

これまでのイベント・出張講座の実績をもとに、「遊びながらストレス対処を考える」場をリードするプレイリーダー養成を実施。2024年2月12日開催の「ココロリーツナガール プレイリーダー養成講座」には10名が参加。ストレス対処やセルフケアに関する講座、活用場面の解説、声掛けを意識したカードゲーム体験などの内容で実施した。教育機関や支援機関にお勤めの方、中学校PTAの方、大学生の子どもと親子で参加など、メンタルヘルスに関心をもつ幅広い層からの参加があり、カードゲームを活用して気軽にメンタルヘルスに触れる場づくりに向けて、その必要性や課題を共有し合える機会ともなった。

参加者アンケート結果

- ・ 満足度 90.0%

- 参加者のメンタルヘルスリテラシーに対する意識向上について「ストレス対処やセルフケア、アサーションについて、新たな気づきや発見があった」との回答 83.3%

③ 夕方・夜間相談窓口の設置

2023年4月～2024年2月（月4回）、17時～20時の夕方夜間帯で「ほっとやすらぎたいむ」を実施。進路やメンタルヘルス等の個別相談、ゆったりと過ごせるフリースペースといった、安心安全な居場所を提供した。

- 利用者数：のべ146名
- 利用者のこころの安心感・満足度：参加者アンケートにて「利用者満足度」94.2%、「また利用したい」94.2%

【事業の成果】

2022年度より2年にわたって取り組んできた夕方夜間帯の相談窓口については、本事業実績も後押しする形で、2023年6月開始の仙台市若者自立・就労支援事業にて、週1回での常設化という成果につながった。

カードゲーム「ココロリーツナガール」に関しては、子ども・若者が日頃あらたまって考える機会の少ないメンタルヘルスについて、興味・関心度の引き上げにつなげることができた。さらに、ファシリテーター養成講座の開発を通して、メンタルヘルスリテラシーを遊びながら学ぶ場づくりを広める基盤を整えることができた。また、本事業を通じて、カードゲームを活用した場づくりの依頼も増えてきており、2023年度は就労移行支援事業所を利用する若者世代に向けたワークショップ開催や、地域のお祭りでのゲーム体験ブース出展など、本事業内での開催にとどまらず、遊びながらメンタルヘルスに触れる場は広がりを見せている。

<カードゲームイベント 参加者アンケートより一部抜粋>

- いろんな対処法があるんだなあと考え方が広がりました。
- ストレスについて学ぶことができ、楽しく過ごすことができました。
- ストレス対処法やセルフケアだけではなく、カードゲームを通して自分の「気持ちと向き合う」「考えを言葉にする」といった伝える練習にもなるのではないかと思います。
- .

<夕方夜間相談窓口 利用者アンケートより一部抜粋>

- 夕方、夜間の方が安心して来られる
- 日中の利用が難しいことが多いので、夕方夜間の時間で利用できるのが嬉しいです。
- 誰かに相談できる場があると気持ちにゆとりが生まれる
- 夜は悩みが大きくなりがちなので落ち着くことができて良かった。

【課題と考察】

カードゲーム「ココロリーツナガール」については、2年間にわたる事業実績や、各種メディアでご紹介いただいた経緯もあり、ありがたいことに全国から多くの問合せ・購入希望をいただいている。今後は、ECサイト制作やカードゲーム生産体制など、全国からの問合せ・購入希望にタイムリーに応えていけるような基盤を整えていく。カードゲームで遊びながら学ぶ場づくりを普及することで、子ども・若者のさらなるメンタルヘルスリテラシー向上を目指していきたい。



(執筆担当：山田ゆかり)

■宮城県若者こころの支援モデル事業

事業名	宮城県若者こころの支援モデル事業
助成委託団体・助成金名	宮城県委託事業（保健福祉部障害精神保健推進部）
助成・委託期間	2023年4月～2024年3月（平成31年より5か年）
事業概要	若者の自死予防をはじめとするメンタルヘルス対策の推進を目的とした普及啓発事業を実施。 ①大学生ゲートキーパー養成講座の実施②若者のメンタルヘルス対策に関する普及啓発③若者こころの支援会議の開催を3本の柱とする。

【事業内容/成果】

(1) 大学生ゲートキーパー養成講座の実施

回	月日	対象者	議題等	参加者数
1	5月15日	東北医科薬科大学1年生	セルフケア講座	15名
2	6月28日	宮城学院女子大学教育学科児童教育・健康教育専攻4年生	セルフケア講座	34名
3	7月7日	宮城大学大和キャンパス看護学群2年生	ゲートキーパー養成講座	95名
4	9月22日	石巻専修大学1年生	セルフケア講座	200名
5	11月7日	仙台大学健康福祉学科・スポーツ栄養学科3、4年生	セルフケア講座	43名
6	11月9日	東北工業大学環境応用学科1年生	セルフケア講座	60名
7	2月7日	東北学院大学4年生	セルフケア講座	70名
8	2月8日	仙台白百合女子大学3年生	セルフケア講座	30名

今年度は目標の3回実施を大きく上回り、8大学にて出張講座を展開することができ、大学との連携を深めながら多くの学生に伝えることができた。コンテンツは若者こころの支援会議にて頂いた各大学からの課題やご意見を元に、「ゲートキーパー養成講座、その前段としての「セルフケア講座」の2本にて安定した実施の基盤を作ることができた。

<アンケートより一部感想>

- ・採用試験にあたり、日々緊張や不安に追われていたため、その状況を言語化させ、落ち着いて自分と向き合うことができた。呼吸法など今後実践したいと思うことが多く、とても良い機会であった。自分なりにセルフケアをしつつ、悩んでいる様子の人が周りに居たら、話を聞くことをしてあげたいと思う。
- ・悩みや思い詰めている人の心情を振り子に例えて説明して頂いたのがとても分かりやすかった。ずっとマイナスだったりプラスの感情になっている訳ではなく、心情が動き続けているため、話を聞く度に相手の感情が違っていても、理解してあげることができるのではないかと感じた。



(2) 若者のメンタルヘルス対策に関する普及啓発（講演会開催）

① 12月14日(木) 13:30~15:30（オンライン）30名参加

演題：若者の生きづらさはどこから来るのか？～広がる「つながり孤独」～

講師：土井 隆義様（筑波大学 人文社会系教授）

【一部感想】

・世代間ギャップについて、日頃の生徒と保護者との関わりから納得のいくことばかりでした。用意いただいた資料もとても貴重なもので大切に読み返して今後の学びにも活かして行きたいです。

・年々変わる学生気質が社会背景や家庭環境の影響下において大きな違いがあることがとても分かりました。今後の学生対応に活かしたいと思います。ありがとうございました。

② 3月5日（火）13:00~15:00（オンライン）200名参加

演題：～死にたくなりづらい 幸せに生きるための社会の作り方～

講師：末木 新様（和光大学 現代人間学部教授）

【一部感想】

・現在においても学校教育では、「死」や「自殺」に関する内容を忌避するような傾向が見られ、それらについて触れることは「寝た子を起こす」のではないかと、という懸念が多く見られています。それは、今回の内容においても触れられていましたが、幸福とは何か？について考える視点をも結果的に避けてしまっている部分があるように感じます。いじめ問題や不登校に関する対応などについての議論と共に、子どもの心身の健康や家庭・地域との関わり合いを含めて、取り組んでいく必要があると、今回学ばせていただいて改めて感じる事ができました。

(3) 若者こころの支援会議の実施

県内大学関係者、宮城県保健福祉部精神保健推進室、宮城県精神保健福祉センター、民間若者支援団体（一般社団法人ワカツク）、事業主体団体にて構成。

第1回：2023年9月21日 17名参加（Zoom オンライン）

第2回：2024年2月5日 15名参加（Zoom オンライン）

第3回：2024年3月7日 13名参加（対面）

参加大学：石巻専修大学・尚絅学院大学・仙台大学・仙台市白百合女子大学・東北医科薬科大学・東北学院大学・東北工業大学・東北文化学園大学・宮城大学（大和キャンパス・太白キャンパス）・宮城教育大学・宮城学院女子大学

【事業の成果】

5年目の最終年度を迎え、体制も安定し実施することができ、大学間での積極的な意見交換を行うことができた。会議の場にてゲートキーパー養成講座やセルフケア講座を導入した大学から実践報告をいただくことで、他大学がその効果を実感でき、その後の導入検討に繋がった例も見られるようになり、学生のメンタルヘルスを横のつながりで支えるという良い流れを作ることができたと感じている。

実績としてゲートキーパー養成講座・セルフケア講座は目標3回を大きく上回る8大学での開催、普及活動としての2回の講演会では目標を大きく上回る参加人数、若者こころの支援会議も安定した形で多くの大学に参加いただき開催することができた。支援会議で議論を重ね完成した「大学生ゲートキーパー 養成講座」「セルフケア講座」においては、最終年度として安定した形で多くの大学に導入することができ、感想を見ても一定の効果を上げることができた。

【課題と考察】

より大学との連携の強化と、大学職員向けのゲートキーパー研修の必要性について以前より支援会議で学んでいたが、実現までには至らなかった。これらを踏まえ来年度に繋げて若者の自死予防に貢献していきたい。

（執筆担当：小関美江）

令和5年度宮城県オンライン居場所支援モデル事業

事業名	令和5年度宮城県オンライン居場所支援モデル事業
助成委託団体・助成金名	宮城県（保健福祉部）
助成・委託期間	2023年6月30日～2024年3月31日
事業概要	対面でコミュニケーションをとることや外出することが難しい引きこもり当事者が、安心して気軽に参加できるオンライン上の居場所を開設し、社会とのつながりの回復や、家族以外の他者とのかかわる能力の向上を目指す事業。株式会社キズキとの共同提案で受託し、交流支援を弊法人、学習支援を株式会社キズキが担当し、運営している。

【事業内容】 毎週月曜日9時～17時までの間、オンライン居場所「おらんちラウンジ」にて交流と学習、相談の機会を提供する。対象者は、宮城県内に在住する、概ね18歳以上の引きこもり当事者及び15歳以上で義務教育終了後、高等学校等に在籍せずに引きこもり状態にある者としている。社会とのつながりの回復とは、対面の居場所への移行や繋がりをさす。初年度目標数値 登録人数12名。

【事業の成果】

2023年8、9月はモニター参加実施、10月より一般公開して参加者を募り、実施した。初年度登録目標の12名、対面の居場所への移行4名、満足度も高く、一定の成果はあげられたと考える。実績（2023年8月～2024年3月）

実績（R5.8～R6.3）		【活動実績】（R5.8～R6.3 8か月間、一般公開10月）	
新規問合せ数	31件	開催実数（週1回）	9:00-17:00開催 24回 17:00-21:00開催 7回
新規面談数	20件	利用者数 全体	実12人 延べ220人参加
新規体験数	16名	集団プログラム支援	実施数 59回 実10人 延べ100人
新規登録実数	12名	個別交流	実人数 9人 合計64回
新規登録実数	12名	個別学習	実人数 5人 合計53回
新規登録実数	12名	個別面談	実人数 8人 合計22件
対面居場所への移行	4名	対面の居場所等との連携	実10名 延べ161回
		対面の居場所に繋がった件数	実 4人 宮城県引きこもり支援センター、就労移行支援、若者支援居場所、デイケア

■ 問合せから登録まで

問合せ31件のうち、10、20代の方が6割以上、男女比では男性が5割以上であった。問合せ者分類では、「本人」が一番多く、全体の3割を超えた。オンラインの利便性があるのではないかと考える。問合せが「本人」で、体験まで進んだ方は、全員登録したことから、主体性が高いと考える。家族からの問合せから、本人との面談・体験につながった方はいなかった。家族への継続的な支援の必要性も課題である。利用目的は、5割が交流、2割が学習、2割が就労と回答があり、複数希望する方もいた。



■ 登録者の状況

12名の登録となった。20代までの方で9割となった。不登校歴ありの方が約7割、精神科通院歴のある方は約8割であった。相談機関からの紹介が約7割で、モニター参加者以外は対面居場所まで繋がっておらず、地域の相談支援者が懸命に支えているケースが多かった。自力でたどり着いた相談機関がない2名は、学校・医療には

繋がっていたが、繋がり先も居住地域も本人の状況を知らず、埋もれていたケースと言える。ひきこもり状態調査の結果では、10名がひきこもり状態に該当し、中でも高い尺度の方が5割となった。

謝辞：本事業において、ひきこもり状態の評価にHQ-25を使用させていただきました。これらのツールを開発された九州大学に感謝の意を表します。

【登録者12名の状況】

性別（人）		登録時の年齢		相談機関の有無		対面の居場所の有無		情報源	
男性	8	10代	5	あり	9	あり	3	支援機関	8
女性	4	20代	6	なし	3	なし	9	ネット・チラシ	4
		30代	1						

■ 終了時（2024年3月）の状況

【満足度・継続アンケート実施】登録者に満足度アンケートを実施し11名より回答があった。満足・とても満足が8名、普通が3名であった。

変化や感想（自由記載 一部掲載）

- ・人と話す抵抗感が減った
- ・交流の機会が増えた。自分では増やせないのが良かった。
- ・自分の話に興味を持ってもらい、丁寧に対応してもらったことが良かった
- ・自分の気持ちを家族以外に話せた

【終了時ひきこもり状態調査実施】 数値に多少の変化はあったものの、本人の活動度、満足度との関連性までは見いだせなかった。



■ 協働支援機関との連携 ～対面の支援機関からの声 一部掲載～

本事業では、登録者の地域支援機関と連携しながら支援を実施した。対面の地域支援者の感想を紹介する。

- ・おらんちラウンジは、顔の見える支援機関。
- ・オンラインでも対面による支援と同様にひきこもり支援が行えること、そこからリアルな対面支援に繋がっていくことができるのではないかと期待感を非常に感じた。
- ・支援者も孤独になりがちなひきこもりの支援のなかで、おらんちラウンジとの連携は大変心強かった。
- ・本人と支援者がおらんちラウンジの中に集まってケア会議や相談ができたのは、初めての経験だった。
- ・おらんちラウンジを通じて、本人と途絶えていた（対面の支援機関）との関係性を戻すことができた。
- ・頻度高くアウトリーチできなかつたり、長かかわる中でストレスを感じてしまったりするなか、おらんちラウンジが開始したことで支援者の負担が軽減され、少し気持ちに余裕を持てるようになった。
- ・おらんちラウンジの利用を通じて、本人が明るくなり、表情も柔らかくなった。（関係者の同席なく）一人でオンライン居場所に参加できるようになったことが、本人の自信に繋がった。
- ・疎通性がよくなったことで、対面支援もしやすくなった。
- ・地域には、紹介したいけど、繋がられない方が多くいる。また、紹介していても繋がるまで年単位で時間がかかる方もいる。何かのきっかけで「やってみよう」となったときに、紹介した場所が「ある」ことが重要なので、ぜひ継続的にしてほしい。

【課題と考察】 広報とマンパワーの課題があった。支援者が対象者に説明する難しさがあるため、より分かりやすい情報をホームページ上にあげる等が必要であった。マンパワーについては、交流・学習共に個別支援の需要が多かったため、当初の想定以上に支援者の人数確保が必要となった。丁寧な個別支援の先に集団、対面居場所へ繋がると考えるため、次年度は支援者が説明しやすいツール作成や、個別対応を継続できる形を模索し、工夫していきたい。

（執筆担当：小野 彩香）

■東北工業大学 キャリア講座委託

事業名	東北工業大学キャリアセミナーⅠ
助成委託団体・助成金名	東北工業大学 委託事業
助成・委託期間	2023年4月～2024年3月
事業概要	長町キャンパス ライフデザイン学部生活デザイン学科2年生を対象に、キャリアセミナーを対面にて実施。

【実績及び成果】

講義の全体趣旨は本格的な就活の前に土台として必要な社会基礎力の習得をベースとし、キャリアデザインの考え方や多様な働き方、コミュニケーションやプレゼンテーションスキルの習得を目指す内容で実施。毎年好評のLEGO講座は感染対策をしたうえで実施。コロナ禍で制限の多い高校生活を送ってきた状況を踏まえ、セルフケア等の講座を昨年同様取り入れ学生のメンタルヘルスを支援しながら、将来のキャリアについて考えることができる内容とした。

回	日付	担当講師	タイトル	内容
1	10月7日(金)	小関	学生のキャリア・デザイン	学生と社会人の違い・社会人基礎力とは自身のキャリアについて考える
2	10月21日(金)	今野	日本のNPOと企業の社会貢献活動について	世の中の多様な働き方を知る
3	10月28日(金)	小野	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎理解
4	11月11日(金)	小野	アンガーマネジメント	怒りの対処法
5	11月18日(金)	小野	アサーション	自分もOK、相手もOKなコミュニケーション
6	12月2日(金)	小野	メンタルヘルス	ストレスとセルフケア
7	12月16日(金)	高橋由佳	課題解決コミュニケーション①	LEGO アイデアワーク(2組は「文章の書き方」課題)
8	12月23日(金)	小関	自分プレゼン術	自己理解(強み)・プレゼンのポイント
9	1月6日(金)	高橋由佳	課題解決コミュニケーション②	LEGO アイデアワーク(1組は「文章の書き方」課題)
10	1月13日(金)	小関	就職活動に向けて	インターンシップ・今後の就職活動の流れや必要な準備

(執筆担当：小関美江)

■ 仙台市災害こころネットモデル 委託事業

事業名	2023年仙台市災害こころネットモデル事業
助成委託団体・助成金名	仙台市健康福祉局
助成・委託期間	2023年1月1日～2023年3月31日
事業概要	災害時の精神障害者支援をより円滑に行う為に、精神障害者の自助力の向上及び地域における事業所・団体間のネットワーク強化に資する活動の拡充を図る。

実績及び成果・課題

実績：避難訓練に合わせて、今年度は事業の趣旨の一つであるネットワーク強化を意識した取り組みを取り入れた。

内容としては、別法人の2事業所にもお声がけをし、合同での非常食試食会兼ハンドブック読み合わせを実施。他機関との日頃の連携強化に合わせて、災害時の認識のすり合わせ等を行うことが出来た。



(執筆担当 田口雄太)

13) メディア掲載

※掲載した画像につきましては、使用許可を頂いております。

● 2023年9月

仙台市政だより9月号 令和5年度仙台市若者自立・就労支援事業「ユースPASSO」



さまざまな悩みや不安を抱える若者の自立・就労を支援する取り組みを行っています。

困難を抱える若者の支援を強化

ひきこもりやヤングケアラー、発達障害などの問題が複雑化・深刻化する中、円滑な社会生活を送ることに困難を抱える若者は少なくありません。それぞれの悩みや不安に寄り添い、状況に合わせた支援を行うことが必要です。

本年度、市は子供相談支援センターを「ことも若者相談支援センター」に改め、おおむね20歳までとした支援対象を39歳までに拡大。さらに、教育や福祉、雇用などの関係機関・支援団体で構成される「仙台市子ども・若者支援地域協議会」を設置し、支援体制を強化しました。また、6月からは若者の自立・就労支援事業「ユースPASSO」をスタート。困難を抱える若者に対し、相談対応やカウンセリング、就労に向けた各種講座の実施などを通して、社会的自立を後押しします。キャリアアコンサルタントや精神保健福祉士の専門スタッフが、一人一人の状況やペースに合わせてサポートするので、安心して利用することができます。引き続き、若者の未来に向けた一歩を支えながら、支援に取り組んでいきます。

特集②

ユースPASSO 00 PASSO2 イタリア語で「一歩」

就活やコミュニケーションに不安がある、仕事が続かない、学校に通えていないなど、「働くこと」「学ぶこと」に不安や困難を抱える方をサポートします。

<p>個別相談・個別面談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころの相談、キャリアカウンセリングなど ・オンライン相談や訪問サポートもあり 	<p>就労サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション、ビジネスマナーなどの講座 ・求人検索、応募書類作成、面接練習などのサポート
<p>フリースペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書や勉強、就労の準備など、自由に利用可能 ・WiFiや貸し出しパソコンも完備 	<p>リカバリープログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころの講座（セルフケア、ストレスマネジメントなど） ・アートプログラム、ゲーム交流会など

利用対象 次の全てに該当する方

- ①市内にお住まいか、通勤・通学している方
- ②おおむね義務教育終了後から39歳までの方で、働くこと、学ぶことに不安や困難を抱え、一歩踏み出せない気持ちでいる方

住所 宮城野区相馬1-6-3（東口鳳ビル602）

利用日時 平日～金曜日の10:00～16:00
水曜日は17:00～20:00も利用可

申し込み 電話、Eメールで初回面談の予約を ▲詳しくはこちら

☎253-7701、Eメール youth-passo@npo-switch.org
ホームページ <https://switch-sendai.org/youth-passo/>

利用者のおはなし

20代男性

正社員として働いていた会社を4年前に辞めてから、ひきこもってしまったため、外に出るきっかけとして通い始めました。ここでは、メンタルヘルスやビジネスマナーの講座を受講しており、最近ではウォーキングやゴミ拾いにも参加しました。フリースペースで読書をしてゆったり過ごすこともあります。さまざまな人と交流する中でコミュニケーションを学び、自分から話すことが少しはできるようになったと感じています。

30代女性

同じ目的を持つ仲間ができたのがうれしいですし、自分も頑張ろうという気持ちになります。ゲーム大会は、みんなで盛り上がって楽しかったですね。一人で抱え込むタイプでしたが、ここに通い始めて周囲に相談できるようになりました。スタッフの方々は一歩踏み出すきっかけをくれたり、頑張り過ぎていたら「休もう」と声を掛けてくれたり、一人一人に寄り添ってくれます。自分らしくいられて、安心できる居場所です。

20代男性

小学校の時に発達障害の診断を受けてから、学校生活の半分はひきこもり状態でした。発達障害について、少数派でマイナス面と感じていましたが、ここで同じ境遇の方と出会って、「自分だけじゃないんだ」と考え方を直すことができました。今は自立できるようスキルを学んでいます。ユースPASSOは、自分だけでなく、家族からの相談も受けてくれて、家族の思いにも寄り添う「味方」であると感じます。

この特集に関するお問い合わせは、若者支援課 ☎214-8687、FAX214-8784

● 2023年9月
河北新報様 (9/30)

ひきこもりがちな方へのオンライン居場所「おらんちラウンジ」取材していただきました。

掲載日:2023年09月30日, 面名:M206X0, 記事ID:K2023093000000001800

(C)河北新報社

私の居場所 ウェブ上に



アバターを動かし会話や学習相談できる「おらんちラウンジ」の体験会

県はひきこもりの人の支援の一環で、ウェブ上で「おらんちラウンジ」を開設する。名称は「おらんちラウンジ」。対面での相談に行きづらい人用に、本人の好きなタイミングで会話したり顔を見せた

県、ひきこもり支援へラウンジ開設

来月2日から毎週月曜 アバター介し会話

利用できる場を提供する。「おらんちラウンジ」は、ウェブ上にある広場にアバターを登場させる。他の利用者とチャットで話し、機器のカメラや設定を変えながら、利用者の好きなタイミングで動物のアバターを本人の顔にも切り替えられる。マイクを使った通話も可能だ。利用者が一緒にゲームや動画を鑑賞することもできる。

広場には4〜7名の専属スタッフが常駐。広場には「相談支援室」や「学習支援室」もある。入室すると部屋の外には映像や音声を通じなくなるため、スタッフと個別で相談できる。

毎週月曜日、午前9時〜午後5時に開催。自宅にひきこもりがちで県内在住の15歳以上が対象で、高校に在籍していない人に限る。利用は無料で、「おらんちラウンジ」のホームページなどから申し込める。

● 2023年8月 石巻日日新聞 ～いしのまきNPO日和～

2023年(令和5年)8月17日(木曜日) 第3種郵便物認可 石巻日日新聞 石巻

いしのまきNPO日和  ～みんなの活動情報誌～ vol.088
2023年
毎月第三水曜日発行
HPO活動にふれてみませんか 8月17日

発行: いしのまきNPOセンター(石巻市いしのまきNPOセンター) 石巻市錦町1丁目43 電話: 月～土 1000-2200 土 1000-1800 休日: 日・祭日 TEL: 0225-23-0851 FAX: 0225-23-3641 HP: ikinomakinpo.jp/npoinfo/

社会的に不足しているサービスの提供や地域が抱える課題の解決といった目的や活動のため、様々な活動を行う団体や事業体です。公益性があり、利益を上げる事業を目的としていないので、行政や企業が抱いている社会サービスの提供にぶくぶくすることができます。

**「若者が一歩踏み出すために」
「地域と協働した場づくり」**

認定NPO法人「Switch(スイッチ)」は、さまざまな悩みを抱えながら学ぶこととはたらくを希望している若者を受け入れる団体として、仙台市と石巻市の二つのエリアで、主に精神発達障害のある人を対象とした福祉サービス事業と、多様な悩みに向き合う若者を受け入れるための事業を展開しています。また、地元企業や団体の協力を得た若者就業実習やボランティア体験の場など、若者が経験を積む機会を創出しています。

石巻エリアでは、福祉サービス事業「スイッチ・イシノマキ」(イシノマキ)と自主事業「ユースサポートカレッジ石巻NOTE」を展開しています。以下に各事業について紹介します。

スイッチ・イシノマキ
(認定福祉サービス事業)
障害福祉サービス(自立)訓練・生活訓練・事業ス
イッチ・イシノマキでは、基本的な生活・対人スキルから、障害への理解と自己対症等個別のメニュー、セルフケアや就労支援、創作活動等のプログラムによりサポートをしています。本人の自己実現がはたらくことである場合は、個々の就労支援も行って

訓練・生活訓練・事業ス
イッチ・イシノマキでは、基本的な生活・対人スキルから、障害への理解と自己対症等個別のメニュー、セルフケアや就労支援、創作活動等のプログラムによりサポートをしています。本人の自己実現がはたらくことである場合は、個々の就労支援も行って

いてそれぞれのタイミングで、スビーゼイに就労へとつなげています(令和4年度の就職者2人)。

石巻NOTE(自主事業)
高校生世代・20代の就労・就学に不安を抱える若者を対象に、本人の希望に合わせたサポートを実施しています。

① 通所によるサポート(就業や修学に必要な情報や親会の提供と個別サポート)

② 高校内居場所カフェ(学校の中に入り、帰りに若者と関わる仕組み)

③ 個別のアプローチ訪問支援

といった3つの柱を組み合わせ、教育から就労へのスムーズな移行と、制度の狭間に陥ることのないような支援を展開しています。

また、地域の方々や企業などさまざまな社会資源と連携し、作業活動や交流をすることで若者の就労までのステップアップを段階的に応援しています。

「1次」のサポートの場(入居)へ

野外プログラムの様子

● 2024年3月
社協だより「わくや」第161号(2024.3月号)『私の居場所み～つけた!』で石巻NOTE 事業紹介

重層的支援体制整備事業 参加支援事業

わたしの居場所み～つけた!

認定NPO法人  Switch

「ユースサポートカレッジ石巻NOTE」 

石巻市にある義務教育終了後から20代までの「はたらく」「まなぶ」をサポートする事業所を紹介します。働くことや学ぶことに悩み、困難を抱えている若者たちの進路決定をひとりひとりの希望に合わせて個別にサポートしてきます。涌谷町の方も利用できますので、「どんなところかな」と気になる方は下記連絡先にご相談いただくか、社会福祉協議会までご連絡ください。

連絡先: 0225-25-5374
住所: 石巻市錦銭場1-9 ベガサビル2階
受付日: 月曜日から金曜日
受付時間: 10時30分から16時



【まちの寄付金ポスト】

同法人では、「読み終わった本で若者の未来を変えよう」というコンセプトのもと、古本の寄付で得た資金を活動費にあてる事業を行っていました。社会福祉協議会でも職員へ呼びかけ協力させていただきました。



● 2024年3月

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会が発行する「福祉みやぎ」Vol. 632 (2024年3月号) P8-P9 復興宮城のいま というテーマページに石巻エリア自主事業の活動を掲載頂きました。
 タイトル:『つながり続ける「高校内居場所カフェ」と「ユースサポートカレッジ」の活動』

● 2024年2月 仙台市民活動センター通信ぱれっと 2024 No294

活動現場から、「このたびカタチになりました」

自分なりのストレス対処法を学べるゲーム

若者の就労・就学支援を行う認定NPO法人Switchが開発したカードゲーム「ココロリーツナガール」の一般販売が行われています。自分に合ったストレス対処法やSOSの出し方への気づきを促し、若者の生きる力を育むことが目的のゲームで、2023年2月の完成以降、学校現場などで活用されてきました。遊び方の大まかな流れは、相手が出したストレスカードに対して、手持ちのストレス対処カードから効果的と思うカードを出していくというもの。自分が動めた対処が相手に選ばれ得点になります。ストレスカードには「勉強中、近くに大声で騒ぐ人がいる」「パスの本数が少ないのに1本乗り遅れた」など、高校生を中心に聞き取り集めた身近なエピソードが満載。対処カードを選んだ理由を共有すれば自分と違う考え方にも触れられます。

ココロリーツナガール
 価格 3,500円(税込) / 別途送料520円 ※初回生産特別価格
 開発・製作 認定NPO法人Switch ユースサポートカレッジ部門 TEL 022(253)7701 mail info@npo-switch.org

購入希望フォーム▶